

Netpress

SMBC経営懇話会

TEL:フリーダイヤル 0120-7109-49
FAX:(03)5211-6394
URL: <http://www.smbc-consulting.co.jp>

防災・危機管理・事業継続に強い IT 環境を構築する

“安く、賢く、借りて使う”クラウドコンピューティングとは

日本マネジメント総合研究所(www.jmri.jp) 理事長 戸村智憲

大震災以降、クラウドコンピューティング(以下、クラウド)が注目度を高めています。

すでに、業務の効率性やコスト削減策として活用されている企業もありますが、そもそも「クラウド」とは何か、また、IT-BCM(ITの事業継続マネジメント)としてのクラウドの側面などについて、ここで見ていきましょう。

●「クラウド」とは、そもそも何なのか？

「クラウド」という言葉が頻繁に聞かれるようになりましたが、何か格別の新しい IT 技術があるというよりも、IT のビジネスモデルの総称が「クラウド」と呼ばれるようになったと考えられます。これまでは、IT ソフトや機器を IT 資産として、高い初期費用+IT 資産の購入費+バージョンアップごとの更新費+メンテナンス費用などをもって、「高い IT を自社で買って使う」スタイルが主流でしたが、「クラウド」は極めて安く、賢く、借りて使うという IT 活用のスタイル(ビジネスモデル)として注目を集めているのです。

これを、さらに簡単にいえば、たとえば営業車を買って使うか、リースで借りて使うか、という違いのようなものです。営業車を使用する分だけ 1 台ずつ買って使うと、初期費用や維持費用、修理代も高くなります。つまりクラウドは、営業車をリースで借りて、維持・修理費も月額固定費内で対処できるようにした、必要な際に必要な台数の分だけ安く、賢く、借りて使うスタイルを IT で行うようなものと捉えていいでしょう。

クラウドについて、米国の NIST(National Institute of Standards and Technology)がある程度の定義はしていますが、業界標準として定まったものがあるという状況でもありません。うがった見方をすれば、IT 企業各社が、自社の営業上の都合がよい定義を用いているとさえいえるかもしれません。

ここであえて筆者の定義を挙げますと、「クラウドとは、ASP や SaaS やユーティリティー・コンピューティングなど、データセンターのハードウェア・ソフトウェアの集合体のこと」で、自社でサーバーや費用のかかる IT 機器・IT 資産を持たず、インターネットの向こう側にあるサービスを賢く安く使って、拡張性も縮小性(使えなければやめればよい)も備えた IT のことだといってよいでしょう。

●クラウドのメリット・デメリット

クラウドの活用の推進は、これまでよりも防災・危機管理・IT の事業継続をスムーズにしていますが、全てクラウドにすればよいというわけではありません。では、メリットとデメリットについて見ていきましょう。

クラウドのメリットの 4 大ポイントは、①中小企業も大手企業と同じ IT 環境が安い初期費用で利用できる、②メンテナンスやバージョンアップも固定費用内でクラウド提供者側の IT のプロが行ってくれる(場合が多い)、③インターネットが繋がれば「場所に縛られない IT 環境」を設けられる(出張先や自宅、避難先などでも従来通りの

(次頁に続く)

IT 環境を利用可能)、④データのバックアップがクラウド側で自然と複数拠点に分散して保存される、などです。

一方、クラウドのデメリットやリスクの 4 大ポイントは、①セキュリティ上のリスクがあり得る(ただし、従来の自社で完結する IT 環境も同じリスクがある)、②現状ではまだ従来の IT 以上に自社に合わせやすい(カスタマイズしやすい)クラウドがない、③異なるクラウドサービス間でデータの連携がうまくいかない(乗り換えにくい)状況がある、④小規模企業ではソフトやシステムを買った方が安い場合がある、などです。

●クラウドにける期待

経済産業省のエコポイントやアイデアボックスをはじめ、地方自治体でも定額給付金のシステムや自治体クラウドなどとしてクラウドの活用が進んでいます。経産省では、医療・教育・行政・防犯など多様な面で、クラウド活用の推進による IT の発展で日本の国際競争力を強化できるよう、研究・推進が進められています。また、中央官庁が音頭を取って、IT 経営による競争力強化を目指し、クラウドを中小企業が広く活用するよう呼び掛けています。

実は、普段何気なく使っているシステムもクラウドである場合が増えています。たとえば、ソーシャル・ネットワーク(ツイッターやフェイスブックのようなもの)では、すでにそのシステム自体をクラウドで運用し、G メール(グーグル社提供のメールシステム)やホットメール(Yahoo!社提供のメールシステム)などで知らないうちにクラウドを利用していることもあり得ます。震災復興において、高い IT 資産を買うよりも、IT 環境を安く賢く借りて使い、復旧・復興を進める方が財務的な負担が少ないということも、クラウドの活用促進に拍車をかけています。

企業のもっとも大切な資産である人材をリストラするよりも、IT 資産をリストラしてインターネットの向こう側にある外部のクラウドという IT 資産を借りて使うことは、これからの企業経営において重要な視点だといえます。

●防災・危機管理・IT-BCM(IT の事業継続)にクラウドが強いのはなぜか？

クラウドは基本的に、インターネットの向こう側にある IT 資産にアクセスし、その IT 資産を借りて使う「場所に縛られない IT 環境」そのものです。全ての IT 資産やシステムを自社内に設けていたら、万が一のときには IT 環境の全てが崩壊してしまう危険があります。

逆にいえば「場所に縛られない IT 環境」のクラウドを活用すれば、万が一、本社ビルや拠点の全てが被害を受けても、別の安全な場所に避難し、インターネットがつながるところから今まで通りの IT 環

境にアクセスし、メールでの安否確認や受発注処理、会計処理などをすぐに行えるわけです(大まかな概念図は上記図を参照)。クラウドは基本的にクラウド提供者側で複数拠点にデータをバックアップ保存していますので、別の拠点からでも今まで通りの IT サービスを提供可能です。場所に縛られない IT 環境を構築するために、メリット・デメリットを考慮した上で、自社のスタイルに合ったクラウドの活用を検討してみたいでしょうか。

